『箸が進めば友となる』伊藤優

箸が進めば友となる

【箸が進めば友となる人物表】

北原愛（１６）　舞の友人で高校生
海野舞（１６）　愛の友人で高校生
新道力（２８）　若手ディレクター
箱崎大（３０）　アナウンサー
館石知世（３５）　お笑いコンビニューフェイスのツッコミ担当
佐藤秋歳（３２）　ニューフェイスのボケ担当
海野都（４０）　舞の母
出演者　大食い大会の出演者

【あらすじ】

万年金欠大学生の北原愛は、北海道で行われている大食い大会に出場していた友人の海野舞が、急性胃腸炎になったため、二回戦から代わりに出場することになる。舞のふりをしながら、おいしい北海道名物を次々と平らげ、最終決戦まで来てしまう。そんななか急性胃腸炎と嘘をついていた舞は病院にはおらず、北海道を観光客として楽しんでいた。最終決戦前日、すすきのでホストクラブの前で騒いでいた舞を見かけた番組ディレクターによって、舞の仮病と愛の替え玉出場が明らかになる。舞は出場資格がなくなり、愛は舞への信頼が揺らいでしまう。舞と愛は、ホテルに戻り、一緒に最終決戦の生放送をテレビで見る。舞の大食いとして脚光を浴びることへの悩みと愛の葛藤を打ち明けあう。

箱崎大（３０）、元気よく声を張り上げる。その後ろで過剰とも言えるＢＧＭや効果音が鳴っている。

大「第２１回なまら美味い！北海道グルメレース！」

館石知世（３５）と佐藤秋歳（３２）が「イエーイ」などと盛り上げる。

秋歳「いえーい、イエーイ、遺影！」

知世「なんやねんそれ、死んでもうてるやないの」

秋歳・知世「うーん、困った困った」

秋歳「試される大地！　北海道！」

知世「なんやねん、それ！」

大「あははは、はるばる大阪からようこそ！　ニューフェイスのお二人です！」

拍手

知世「よろしくお願いします」

秋歳「やっぱり、北海道は寒いですね」

大「そうですね。まだまだ最高気温が一桁台が続きますからね。さて、今日は豚丼勝負！」

大の声が、だんだんテレビからの音に変わる。

お菓子を食べている海野舞（１６）

舞「ん？　今、ホテル。違うよ、東京の生放送は最終決戦」

電話の相手は、北原愛（１６）

愛「あーそうか生放送かと思ってたわ」

舞「あはは、だったら私、電話しないよ」

愛「そうだよねー」

舞「うん」

愛「というか、羨ましすぎ、北海道とか」

舞「うん」

愛「温泉は入れるんでしょ？」

舞「うん。番組側が用意してくれた宿に、一応」

愛「あるんだ。いいなー、私も人のお金で旅行行きてぇー」

舞「旅行っていうか仕事っていうか」

愛「そうだけどさぁ、いいじゃん。私もつれてってよ」

舞「そんな簡単じゃないよ」

愛「メイクさんだとか言ってさ」

舞「無理無理！　舞、まだ１６だし」

愛「関係ないでしょ。一応、王食いタレントなんだし」

舞「うーん。でも、もう始まっちゃったし、どっちにしろ無理でしょ」

愛「あー、北海道行きたーい！」

舞「うんうん」

愛「あ、お土産！　カニね！　カニ！」

舞「バカ。カニは無理」

愛「あー、北海道。うーん、うーん、うーん」

舞「なに」

愛「考えてんの」

舞「ごめんごめん」

愛「あ、いくら！」

舞「なんで、生ものばっかりなの？　あ」

愛「（少し待って）なに？」

舞「あ」

愛「なになに？　電波？　Wi-Fiの調子悪い？」

舞「い」

愛「い？」

舞「いったぁ、痛い！　お腹痛い！」

愛「え、大丈夫？」

舞「痛い、死んじゃう」

愛「きゅ、救急車」

救急車のサイレンが聞こえる。

愛「え、もう呼んでるの？」

舞「え？　あ、うん、痛たたた」

救急車のサイレン止まる。

愛「違う。うちの近所に止まった」

舞「痛いぃ」

愛「どうしよ」

舞「急性胃腸炎かも」

愛「きゅうせいいちょうえん？　痛いの？」

舞「うん、前もなったことあって、こんな感じだった」

愛「こっちから救急車呼んでも大丈夫かな。東京から連絡来てびっくりしちゃうかな」

舞「いたずらだと思われるかも。うっ」

愛「わわわわ、どうしよ。おかーさん！」

舞「大丈夫、救急車呼んだ」

愛「うそ、今、何で話してんの！」

舞「携帯」

愛「なにで電話したの！」
舞「客室の、電話」
愛「さすが舞、完璧」
舞「ありがとう、でも、そんなの言ってる暇、うっ、痛いっ」
愛「辛そうだし、電話切る」
舞「ねぇ！　愛！」
愛「ん？」
舞「う、お願いがあるの」
愛「なに？」
舞「明日の二回戦代わりに出てくれない？」
愛「え！」
舞「いや、絶対、急性胃腸炎だから！」
愛「棄権したら？」
舞「それはちょっと」
愛「うーん、わかった！　北海道行く」
舞「ありがとう！　航空券送る」
愛「どうやって」
舞「こうやって」

ピコンと通知音

愛「え、これ？」

舞「ＱＲコード。それで飛行機乗れるから」

愛「すごーい」

舞「あと宿」

ピコンと通知音

舞「ここ」

愛「こんないいところに泊ってるの？」

舞「うん」

愛「うわー、バスタブ猫足じゃん」

舞「うん。とにかく、よろしくね」

愛「被り物は？」

舞「部屋に置いてる」

愛「サンキュー」

舞「じゃ、切るね。あー、痛っ」

電話切れる。

愛「大丈夫かな」

飛行機の飛ぶ音

大の元気な声が響く

大「第２１回なまら美味い！　北海道グルメレース！　二回戦」

秋歳「試される大地！」

知世「北海道！　そんな顔すんな！　一緒に言おうって言ったやんけ」

秋歳「知らーん、知らーん」

知世「知床半島！」

過剰なＢＧＭと効果音

大「二回戦もここＮＨＫ札幌放送局前の特設会場で北海道ご当地グルメを食べて食べて食べまくる！　女王たちの胃袋真剣勝負！　二回戦を突破した女王候補をご紹介いたします」

愛「うわー、緊張する。みんな目が本気と書いてマジ。どうしよう」

大「大食い界のニューフェイス！覆面の肥大胃袋とは彼女のこと！　海野舞！」

愛「うおおおおおおお！」

大「すでに勝気にあふれています。お皿を噛むというパフォーマンス！いつもおとなしい海野舞とは大違いだ！　これは期待大ですね」

舞、テレビを見て

舞「何してんの、愛。目立ってどうするの」

愛、電話で

愛「え？　最終決戦からじゃないの、生放送」

舞「北海道は、ずっと生放送。人気番組だから」

愛「ごめん、舞が大食いしてるところみたことなくて」

舞「予習ぐらいしてよ」

愛「だって、いつも舞、見ないでって言うじゃん」

舞「もう」

愛の後ろから新道力（２８）の声が聞こえる。

力「みなさん、ＣＭあけます。席にお戻りください」

ザワザワとし始める。

愛「あ、はーい。ごめん、切るね」

電話が切れる。

舞「大丈夫かな」

雑多なＢＧＭ

大「今回はどんなドラマを見せてくれるのでしょうか！それではニューフェイスのお二人、二回戦開幕の合図をお願いします！」

知世「３、２、１」

秋歳「ジンギスカーン」

ゴングが鳴る。

大「制限時間４０分で一皿２００ｇを何皿平らげられるのか！　熾烈な戦いが始まってしまいました！」

知世「一皿２００ｇのラム肉の横には、キャベツがあってね。これはお腹にたまりますよ」

秋歳「ショックショック食物繊維」

大「胃袋の神に愛されたのはいったい誰だ！」

時計の針の音が響く。

大「おっと、ここですべてがベールに包まれた女！　海野舞が、１０皿目！　ニューフェイスのお二人、いかがですか」

知世「このおいしそうな表情見てください！」

ジューとラム肉を焼く音。

愛が食べる音。

秋歳「あーん」

知世「お前が食べたらあかんやろ！」

愛「ふふふ」

秋歳「俺も食べたいわぁ」

知世「お味はいかがですか？」

愛「とってもおいしいです」

知世「食べたいわぁ」

大「このおいしいラム肉を提供しださったのは、老舗ジンギスカン専門店」

大の声の音量が小さくなっていく。

ホテルの部屋のドアが開く。

舞「おかえり」

愛「舞！　大丈夫？」

舞「大丈夫大丈夫！別に急性胃腸炎じゃなかった」

愛「もう、なに。心配したじゃん」

舞「ごめんごめん、ありがとうね」

愛「本当だよ。大切な幼馴染がいなくなっちゃうかと思ったんだから」

舞「死なないよ」

愛「それくらい心配したってこと！」

舞「ありがとう」

愛「じゃあ、私、もう代わりに出なくていいってことかな？」

舞「うん」

愛「大食いってすごいんだね」

舞「そう？」

愛「横にあるバケツに吐いちゃう人とかい

るし、私ももらいゲロするとこだった」

舞「愛、吐かなかったんだ。すごいや。というか、愛、すごいね。みんな地方大会ですごい成績収めた人達ばっかりなのに２位って」

愛「北海道のジンギスカン、すごいおいしいね！　新宿で食べたのと全然違う」

舞「ふーん」

愛「食べたかった？」

舞「いや」

愛「いやぁ、大食いっていいな。おいしい食べ物いっぱい食べられるんだもん」

舞「じゃあ、明日も出ちゃう？」

愛「え」

舞「出ちゃったらいいんじゃない？」

愛「いやいやいや」

舞「私、遊びに行ってくる」

愛「もう大丈夫なの？」

舞「言ったでしょ、急性胃腸炎じゃないって。じゃあね」

愛「うん、いってらっしゃい。すぐ帰ってきてね！」

舞、出ていく。

愛、コンビニの袋をガサガサとし

愛「豚丼食べよ」

割りばしの割れる音

電話のコール音

愛「なんで出ないの」

電話のコール音

力「ご準備できましたら、こちらへお越しくださーい」

愛「もう、本当にまた私が出ることになったら」

愛「来て。今すぐ」

トークアプリでメッセージを送信する音

大のハリのある声が聞こえてくる。

大「おはようございまーす」

知世「よろしくお願いしまーす」

秋歳「よろしくお願いしますー」

大「あー、おはようございます。今日は、お二人ともそっくりですね」

知世「ははは、この歳でペアルックってな」

秋歳「ちょっとあれやねんけどな」

大「あはははは、最終決戦ですもんね」

知世「気合入れんと」

秋歳「みなさん、頑張りましょー」

愛「おわった」

遠くから気だるげな舞の声

舞「遅くなりましたー」

周りがザワザワとし始める。

愛「舞？」

大「あれ？　さっき海野さん、いなかったかっけ」

愛「舞！」

知世「どういうことなん」

秋歳「覆面が二人？」

愛「昨日の夜からなんで連絡してくれないの！」

舞「ごめんごめん、忙しくて」

愛「何が忙しいの。北海道のどこほっつき歩いてたの！」

舞「ごめんごめん」

愛「もう、心配したんだから」

舞「愛、ありがとう」

愛「うん？」

力が、愛と舞のところへ走ってくる。

力「早く準備を！　生放送なんだから！

あれ？　どうして海野さんが二人」

舞「今行きます」

力「ちょっと待ってちょっと待って？」

愛「なんですか」

力「なんで二人！」

舞「すみません、これには理由が」

力「というか君、誰」

愛「あ、友達の北原愛」

舞「いや、友達でも何でもない。ただの通りすがりのファンです」

力「そうなの」

愛「舞！」

舞「気安く呼ばないで」

海野都（４０）の声が会場に響く。

都「舞ちゃん！」

会場がざわつく。

都「舞ちゃん、何してるの。二回戦、出てなかったでしょう」

舞「なんでわかったの」

都「わかるに決まってるでしょ。母親なんだから。家族みんなで楽しみにしてたんだけど？　おじいちゃんもおばあちゃんも、いとこのせっちゃんまで家に呼んで、舞ちゃんの活躍を見せようと思ったのに！　何のために北海道まで行かせたと思ってるの？」

力「お、お母さまですか？」

都「あらＡＤさん？」

力「Ｄです」

都「あらそう。舞ちゃん、お母さん許しませんから。二回戦に出てた子に脅されたんでしょう。そうなんでしょ、舞ちゃん。昔から、舞ちゃん、そうだったよね。お母さん、舞ちゃんには誠実に生きなさいってずっと言ってたでしょう？　脅されてホイホイ、自分の信念捻じ曲げるの

は違うでしょう。あなたね、舞ちゃんを脅したのは？　なんのために？　え？」

愛「私は、ただのファンらしいんで！　なにも、なにも知りません！」

愛、走って出ていく。

舞「待って！」

都「舞ちゃん、行くよ」

舞「お母さん、離して！」

都「お母さんの言うこと聞きなさい！」

都、舞の頬を叩く。

力「お母さん、大事な出演者なんです。やめてください」

舞「行ってくる」

舞の足音

力「お母さん、さっきの話って本当ですか？」

都「え？」

過剰すぎるＢＧＭと効果音

大「始まりました第２１回なまら美味い！北海道グルメレース！　決勝戦！」

拍手

出演者「（小声で）あんた、替え玉使ったんだって？」

舞「味噌ラーメンですか？」

出演者「惚けてないで、現実見てごらん」

舞「なんですか？」

出演者「知らないの？　『大食い界のニューフェイス！　替え玉か？』ってネット掲示板で」

舞「は？」

出演者「あれ、あんたにはほくろないのね」
舞「ほくろ？」
出演者「ほら、口元。覆面でも口元は見えちゃうもんね。今日は、どっちの海野舞？」
力「携帯、こっちで預かりますよ」
出演者「ディレクターさん、知ってましたっ？　この子の噂」
力「噂？」

時間が巻き戻る音

力「お母さん、さっきの話って本当ですか？」
都「え？」
力「ほら、さっき、二回戦は違う人だったって」
都「知らなかったんですか！」
力「娘さん、覆面してらっしゃるから」
都「最悪な番組ね。うちの娘のことをモノ

としか思ってないんだわ」

力「すみません」

都「帰ります」

力「お母さん、待ってください」

都「牧場にでも捨ててくださいね」

都のヒールの音が響く。

力「ぼ、牧場？　お母さん！」

時間が早送りされて、元の時間軸に戻る。

出演者「ディレクターさん、知ってました？　この子の噂」

力「噂？　あぁ」

舞、走っていく。

力「待って！　海野さん！」

出演者「あの子、もう終わりね」

力「ちょっと！」

楽屋のドアが開く。

舞、荒れた呼吸を整える。

楽屋のテレビから大食い大会の生放送の音声が聞こえる。

愛「舞」

舞「なに？　待ってたの？　私に他人って言われたのに」

愛「ううん。待ってない」

舞「じゃあ、なんで楽屋にいるの」

愛「帰ろうと思って」

舞「帰ってないじゃん」

愛「舞こそ、なんでここに居るの。生放送中じゃん」

舞「見てたんでしょ？」

愛「ううん、見てないよ」

舞「見てたんでしょ！　私が恥かいてるところ、見て、嘲笑ってたんでしょ？」

愛「そんなわけないじゃん。友達なんだから」

舞「はあ？」

愛「ああ、でも友達じゃないもんね」

舞「はあ？」

愛「じゃあね」

愛、出ていく。

楽屋とホテルのドアが開く音

舞「なんでいるの」

愛「仕方ないじゃん。夜なんだから」

舞「夜だからじゃないでしょ」

愛「北海道から東京まで、どうやったら帰られるの？」

舞「知らないよ。スマホは何のためにあるのよ」

愛「知らないよ」

舞「ふふ」

着信音

舞「電話してくるの。ディレクターが」

愛「心配だって？」

舞「知らない。出てないから」

愛「ほら、舞にコソコソ言ってた人、負けたよ」

テレビの音声

大「勝者は、ボンバー幸子！」

テレビの向こう側で、騒がしい音楽や人のざわめき、拍手が聞こえる。

愛「ボンバー幸子だって」

舞「また優勝したんだ」

愛「知ってる人？」

舞「知らない」

愛「知らないんだ」

舞「愛より知らない人」
愛「ふーん」
愛「テレビ、消す？」
舞「いいよ、そのままで」
愛「ふん」
舞「どうせ、そのあとニュースとかになるんでしょ」
愛「ニュースとかって」
舞「とかでしょ」
愛「私たちにとってはそうか」
舞「まあ、そうだね」
愛「お母さん、北海道まで来たんだね」
舞「ね」
愛「ウケるね」
舞「うん」
愛「私のこと覚えてなかったね」
舞「そうだね」
愛「ね」
舞「私以外興味ないんだよ」
愛「そんなもんか」

舞「違うでしょ。私というか、自分の育て方？　みたいなものに興味があるんだよ」

着信音

愛「そろそろ出たら」

舞「いいよ」

愛「今度は誰？」

舞「ふふ、やんなっちゃう」

愛「嫌にならないでよ」

舞「嫌になるよ」

愛「ただのファンにも言える話？」

舞「ごめん」

愛「なにを」

舞「愛のこと友達じゃないって言ってごめん」

愛「ごめんごめん、そんなテンション下げさせちゃうなんて思ってなかった」

舞「いや、ごめん。私が悪いの」

愛「ううん。私だけなのかと思ってた、友達だって思っているの」

舞「悲しいじゃん」

愛「え？」

舞「私だけが友達だって思ってたら」

愛「そんなことないでしょ」

舞「あるよ、ある。昔ね、いじめられてたじゃん」

愛「あったねぇ」

舞「あったねぇじゃないよ。私にとっては今も続いてるの。今もずっと一人な気分になっちゃう」

愛「うん」

舞「味方だと思ってた人が、次の日にはもう他人なの。それも敵」

愛「敵って」

舞「愛にはわからないと思うけど、敵なの。私を殺そうとしている敵」

着信音

舞「敵からだ」

愛「敵」

舞「お母さん」

愛「お母さんも敵なのか」

舞「はいはいって感じ」

愛「はいはいって感じじゃなかったよ」

舞「そうだよね」

愛「うん」

舞、布団をガサガサしながら

舞「寝よっかなぁ」

愛「寝られる？」

舞「寝られないよね」

愛「外でよっか」

舞「あー、いいや。外は」

カーテンを開けて

愛「まだ明るいしー、生放送抜け出しちゃ

ったしー」

舞「今頃、ゆうしょうしてたかもしれないのにー」

二人「ふふふふふ」

舞「愛、すごい食べっぷりだったよね」

愛「おいしかったんだよ、ジンギスカン」

舞「決勝の味噌ラーメン食べたかったなー」

愛「私も」

舞「出たかった？」

愛「ううん」

舞「代わりに出てくれてありがとう」

愛「おいしかったよ。北海道」

舞「ジンギスカンしか味わってないじゃん」

愛「豚丼も食べたよ？」

舞「それ知らないよ」

愛「豚丼は舞が出ていったときに食べたから」

舞「ジンギスカンの後に？」

愛「うん」

舞「私よりも海野舞じゃん」

愛「海野舞は海野舞じゃん」
舞「海野舞って誰だー」
愛「いきなり叫んでなによ」
舞「海野舞が独り歩きしちゃってない？
最近」
愛「知らねーよ」
舞「知らねーか」

着信音

舞「静かにしてて」
愛「おっけ」
舞「ふう」
愛「吸ってー吐いてー」
舞「いらないよ」
愛「だよねー、ふふ」
舞「（息を吸って）」

着信音やむ

舞「もしもし」

力「あ、海野舞さん？　ちょっとどうしてくれるの？　生放送終わっちゃったよ？　一番の目玉だったのに！」

舞「（息を吸って）海野舞って誰だー！」

力「え？　あ、違うの？　海野舞さんの携帯じゃない？」

愛「貸して」

舞「いいよ」

愛「うちの舞ちゃんに何か用かしら、舞ちゃんなら出かけちゃったの。遠くに。あなたたちのせいでね！」

舞「（こらえて笑いながら）意味わからん」

愛「そういうことでー、したっけねー」

電話を切る。

舞「ククククッ、ハハハハハハハハ」

愛「どう？　似てた？」

舞「全然似てない」

愛「一回しか会ったことないし」

舞「何回会っても真似なんかできないよ。というか真似するな」

愛「あはは、ごめん」

舞「どうする？」

愛「ん？」

舞「北海道、楽しんじゃう？」

愛「楽しむ！」

舞「いくぞ、北海道！」

愛「いえーい」

舞「何食べたい？」

愛「やっぱ、味噌ラーメンでしょー、リピートジンギスカンでしょー、蟹と、海鮮丼、豚丼！　あと締めにパフェ」

舞「シメパフェねー。いいねぇ」

愛「なまら美味いグルメレースイン北海道！」

舞「北海道、北海道、でかくてうまーい、北海道！」

愛「なにその歌」

舞「今作った」

愛「ウケる」

舞「はい、いくよ。北海道、北海道、でかくてうまーい、北海道！」

愛「そんなすぐ歌えないよ」

舞「覚えて！北海道、北海道、でかくてうまーい、北海道！」

愛「（途中からあやふやに歌に入る）」

舞「北海道、北海道、でかくてうまーい、北海道！」

愛「（少し自信を出して歌い始める）」

二人「北海道、北海道、でかくてうまーい、北海道！」

ドアが開く。

二人の歌声がホテルの廊下に響いて、遠のいていく。

ドアが閉まる。

【終】